デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 11 月 24 日（火） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

- 日経平均は前営業日比 2,207.98 円高の 58,644.63 円と大幅反発し、20 日の 3,007.56 円安の 7 割強を 1 日で取り戻した。TOPIX も 90.66 ポイント高の 3,764.88 と反発したが、上昇率は日経平均の 3.91%に対して 2.47%にとどまり、戻りの中身には偏りが残った。
- 主因は前日の米国株の急反発である。エヌビディアがジェンスン・フアン氏の CEO 復帰を発表して同社株が 31.5%上昇し、SOX 指数は 14.03%高となった。前週に売り込まれた AI・半導体関連に、空売りの買い戻しを含む買いが集中した。
- 物色は半導体・電子部品に偏った。アドバンテストと東京エレクトロンの 2 銘柄だけで日経平均を 973.66 円押し上げた一方、KDDI や任天堂など内需・ディフェンシブの一角は売られ、プライムの値上がり銘柄は 956、値下がり銘柄は 558 だった。
- 連休中の原油先物の下落でインフレ懸念が和らぎ、新発 10 年債利回りは 2.720%へ低下、債券先物は続伸した。今後は 25 日の米 PCE 物価指数、27 日の東京都区部 CPI、そしてフアン氏をめぐる米議会の動きが関門となる。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均（円）	58,644.63	+2,207.98	反発、+3.91%。始値 57,009.99、高値 59,262.57
TOPIX	3,764.88	+90.66	反発、+2.47%
東証プライム売買代金	8 兆 706 億円		概算。売買高は 27 億 7,368 万株
値上がり／値下がり銘柄数	956／558		変わらず 37（みんかぶ 16 時 18 分配信）
新発 10 年債利回り	2.720%	-0.065	DZH・共同通信の終値ベース
新発 2 年債利回り	1.766%	-0.050	フィスコ集計
新発 5 年債利回り	2.100%	-0.063	フィスコ集計
新発 20 年債利回り	3.605%	-0.057	フィスコ集計
長期国債先物 12 月限（円）	127.60	+0.60	続伸。寄付 127.16
ドル円（15 時、円）	159.22		東京時間のレンジ 158.75～159.22
ユーロ円（15 時、円）	173.68		15 時時点
NY ダウ（23 日、ドル）	49,595.31	+1,447.98	反発、+3.01%
ナスダック総合（23 日）	24,089.56	+1,471.83	反発、+6.51%
S&P500（23 日）	7,237.17	+326.78	反発、+4.73%
SOX 指数（23 日）	9,588.05	+1,179.46	反発、+14.03%
韓国 KOSPI	5,006.03	+297.49	+6.32%。5,000 台を回復
台湾加権指数	40,122.35	+3,310.46	+8.99%。TSMC はストップ高
上海総合指数	3,548.37	+9.42	小幅高

3．株式市場

寄り付きから買い戻しが加速、一時 59,000 円台を回復

日経平均は 57,009.99 円で寄り付いたあと買い戻しが加速し、前場中盤には 59,262.57 円まで上昇して、19 日以来 2 営業日ぶりに 59,000 円台を回復した。その後は戻り待ちの売りに上げ幅をやや縮めてもみ合ったが、後場も大幅高を保って引けた。日経 VI は低下したものの、取引時間中は警戒感が緩まなかったと伝えられており、急落直後の反発らしい神経質な値動きだった。前週末 20 日は日経平均が 5.06%、TOPIX が 3.88%下落しており、今日は下げの大きかった日経平均の方が大きく戻した。東証グロース市場の指数も大幅に反発し、新興株にも買い戻しが及んだ。

押し上げの中心は半導体と電子部品

寄与度の上位はアドバンテスト（+651.56 円）、東京エレクトロン（+322.10 円）、ファーストリテイリング（+147.25 円）、ソフトバンクグループ（+114.08 円）、イビデン（+94.39 円）である。イビデンと村田製作所はストップ高、キオクシア HD は売買代金で断トツの首位となり大きく買い戻された。フジクラや古河電気工業などの電線株、TDK や京セラなどの電子部品株にも買いが波及した。値上がり銘柄の寄与の合計は 2,308.01 円、値下がり銘柄の寄与は 100.03 円で、差し引きは日経平均の前日比と一致する。

業種は 26 業種が上昇、内需・ディフェンシブは置き去り

33 業種のうち 26 業種が上昇し、7 業種が下落した。非鉄金属、電気機器、ガラス・土石製品が上昇の上位に並び、銀行業も買われた。原油安でインフレ懸念が後退したことから金融や鉄鋼などの景気敏感株にも資金が向かい、銀行株には中東マネーの流入観測からメガバンク・地方銀行の双方に買いが入った。一方、鉱業、水産・農林業、陸運業などは下落した。寄与度の下位は KDDI（-30.74 円）、任天堂（-5.93 円）のほか伊藤忠商事、バンダイナムコ HD、セブン＆アイ HD で、オリエンタルランドや神戸物産なども売られた。売買代金は 8 兆 706 億円と、急落した 20 日の 8 兆 6,389 億円を下回った。投げ売りが一巡したあとの買い戻しが主体で、新規の買いが大きく膨らんだわけではないことがうかがえる。

個別では材料株の売りも目立つ、戻り待ちの売りも重荷

個別では I-ne が急落し、日本新薬や神戸物産が大幅安、ビジョン、いちご、ハピネットなども売りに押された。指数を押し上げた半導体株とは対照的に、内需の中小型株には持ち高を落とす動きが続いた。日経平均は大幅高となったものの、25 日移動平均線をなお下回っており、前週に高値でつかんだ投資家の戻り待ちの売りが上値を抑えやすい位置にある。一方で、3 月期決算企業の中間配当の支払いが 11 月下旬から 12 月にかけて本格化し、その再投資が需給面の下支えになるとの見方もある。

4．本日の主題：日経平均3.91%とTOPIX2.47%の差が映す「戻りの偏り」

今日の上昇は、指数によって見え方が大きく異なる。日経平均の上げ幅 2,207.98 円のうち、アドバンテストと東京エレクトロンの 2 銘柄の寄与だけで 973.66 円、比率にして 44.1%（筆者算出）を占めた。値がさの半導体関連の比重が大きい日経平均は、前週末の急落と同じ銘柄群に今日の反発も大きく左右されたことになる。これに対し、時価総額加重で金融・内需・資源の比重が相対的に高い TOPIX の上昇率は 2.47%にとどまった。

背景には、今回の買い戻しが「エヌビディアのトップ復帰」という単一の材料に集中していることがある。株探は海外勢の買いが半導体周辺に限られ、内需株には下げる銘柄も少なくなかったと伝えている。SOX 指数が 14.03%上昇した翌日でも、東証プライムの値下がり銘柄は 558 にのぼった。ゲーム・通信・小売などのディフェンシブ株は、リスク回避の受け皿の役割を終えて売られた。

この偏りは、休み明けの相場が安定を取り戻したというより、半導体株のポジション調整が一巡した段階にすぎない可能性を示す。AI 半導体の輸出規制をめぐる警戒感は残り、フアン氏に対する米議会の聴取や独立取締役委員会の調査の結論次第では、同じ銘柄群が再び指数を押し下げうる。原油安を手掛かりに銀行や景気敏感株に買いが入った点は、物色の裾野が広がる芽といえる。

5．債券・金利

国内債券は買いが優勢だった。新発 10 年債利回りは 2.720%と、20 日の 2.785%から 0.065%低下した。長期国債先物 12 月限は 127.16 円で寄り付き、127.60 円（+0.60 円）で引けて続伸した。連休中に原油先物が大きく下落し、インフレ懸念が和らいだことが長期債を中心とした買いにつながった。フィスコ集計では 2 年債 1.766%、5 年債 2.100%、20 年債 3.605%といずれも低下しており、株高のなかでも金利が上がらず、債券と株式がそろって買われた点が今日の特徴である。27 日の東京都区部 CPI で伸びが加速すれば、利回りの下げ止まりの契機になりうる。

6．為替・商品

ドル円は 15 時時点で 159.22 円、東京時間のレンジは 158.75～159.22 円だった。日本株の大幅高にもかかわらず円売りは限られ、時間外取引での米 10 年債利回りの低下が上値を抑えた。ユーロ円は 15 時時点で 173.68 円。商品では、WTI 原油先物が 23 日のニューヨーク市場で急反落し、期近 1 月限は一時 80 ドルを割り込んだ。供給不安の後退による原油安が、国内ではインフレ懸念の後退と金利低下、景気敏感株の買いにつながっている。

7．海外市場の動向

23 日の米国株は急反発し、NY ダウは 49,595.31 ドル（+1,447.98 ドル）、S&P500 は 7,237.17（+4.73%）、ナスダック総合は 24,089.56（+6.51%）、SOX 指数は 9,588.05（+14.03%）で引けた。エヌビディアの取締役会がフアン氏の CEO 即時復帰を全会一致で決め、同社株は 31.5%上昇した。シカゴ日経 225 先物は 57,960 円だった。アジアでは、半導体比重の高い市場ほど上昇が大きかった。台湾加権指数は 40,122.35（+8.99%）と過去最大の上げ幅を記録し、TSMC は 9.85%高のストップ高。韓国 KOSPI は 5,006.03（+6.32%）で、KOSDAQ も 665.88（+4.79%）と上昇した。半導体比重の低い中国本土の上海総合指数は小幅高にとどまり、香港株はテック株を中心に軟調だった。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
11 月 18 日（水）	59,024.28	+163.85	3,824.00	2.870%	8 兆 502 億円
11 月 19 日（木）	59,444.21	+419.93	3,822.47	2.820%	7 兆 7,190 億円
11 月 20 日（金）	56,436.65	-3,007.56	3,674.22	2.785%	8 兆 6,389 億円
11 月 24 日（火）	58,644.63	+2,207.98	3,764.88	2.720%	8 兆 706 億円

9．総括と注目点

3,000 円安の翌営業日に 2,200 円高という振れ幅そのものが、日本株が AI・半導体の個別材料に強く依存していることを示している。今日の反発は悲観の巻き戻しとしては鮮明だったが、TOPIX との上昇率の差や値下がり銘柄の多さを見る限り、市場全体の信認回復とまでは言い切れない。金利低下と原油安という追い風が、半導体以外への資金の広がりにつながるかを見極めたい。

- 11 月 25 日（水）：米 PCE 物価指数（10 月）と 7～9 月期 GDP 改定値。インフレの粘着性と米金利の方向
- 11 月 26 日（木）：米国市場は感謝祭で休場。27 日（金）は東京都区部 CPI（11 月）で国内金利の反応を確認
- 12 月 1 日・3 日：下院 3 委員会によるフアン氏の非公開聴取（下院委員会が公表）と、同氏が証人となる上院銀行委員会の公聴会。エヌビディアの社内調査の行方も焦点
- 12 月 8～9 日：FOMC。NY 連銀総裁がインフレは高すぎるとの認識を示しており、利上げ観測がハイテク株の重荷になるかに注意

注記：数値は 2026 年 11 月 24 日の大引け後に取得。日経平均・TOPIX は確定値、売買代金・売買高は概算値。米国株は現地 23 日、アジア株は 24 日の終値。前日比・騰落率は筆者が前営業日終値との差で検算した（下記の印字値利用分を除く）。寄与度 2 銘柄の合計と比率、寄与の差し引き、20 日の騰落率は筆者算出。
騰落銘柄数はみんかぶ（MINKABU PRESS）16 時 18 分配信の値（株探 15 時 32 分配信の速報では値上がり 952・値下がり 557・変わらず 36）。日経平均の始値はフィスコのみ、高値は株探のみで小数まで確認（単一出典）。11 月 18 日の日経平均と前日比はみんかぶ掲載の株探記事の値。
10 年債利回りは DZH・共同通信の終値ベースで、フィスコ「日本国債市場」の 2.696%（20 日 2.767%）は集計時点が異なるため不採用。2 年・5 年・20 年債と先物の寄付はフィスコのみ、19 日・20 日の 10 年債は DZH のみで確認（単一出典）、18 日の 10 年債は DZH 19 日付記事の前日比からの筆者算出。
ドル円・ユーロ円の 15 時水準とレンジは DZH のみ（フィスコはドル円レンジを 158 円 76 銭～159 円 22 銭と報道）、上海総合指数は株探のみ、KOSDAQ は Digital Today のみで確認（単一出典）。KOSPI・台湾加権指数の前日比は出典の印字値で、前営業日終値の確認は未実施。WTI 原油の清算値は出典間で食い違い、香港ハンセン指数は終値を 2 系統で確認できず、数値の掲載を見送った。
本レポートは生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。出典：株探（フィスコ、MINKABU PRESS）、時事通信、共同通信、DZH フィナンシャルリサーチ（Myforex 掲載）、ザイ FX!、財経新聞、OANDA 証券、Nasdaq、Investing.com、Digital Today、新頭殻、NOWnews。
本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。